

平成21年度 東かがわ市立大川中学校学校評価書

評価項目	達成状況	自己評価	学校関係者評価	改善に向けて	
◎基礎的・基本的な学力定着、伸長のために適切な指導が計画的に行われているか。					
確かな基礎学力の定着	指導の工夫により、基礎的・基本的内容を定着させている。	○漢字の読み書き、英単語など小テストを実施している。 ○小テストの回数を増やし、前時の復習を習慣化させている。	B	B	○計画的な研究授業を通して、板書の工夫、探求型授業の開発・研究を進める。
	学習課題を明確にして工夫した授業を行い、学力向上に努めている。	○どの生徒にも課題が明確になるよう、課題を絞り込んだり、具体的でわかりやすい課題になるように努めている。	A		
	少人数授業やチームティーチングでの指導を充実し、学力を向上させている。	○英語・数学では教員間の密接な連携のもと、2クラスを3つの習熟度別コースに分けたり、チームティーチングで授業を行ったりする等細やかな指導ができた。	B		○少人数授業を行う場合のクラス編制について検討したい。
	学習習慣の共通理解を図り、生徒により学習習慣を身に付けさせる指導に努めている。	○生活記録などで毎日の生徒の様子を確認し、学習習慣について助言している。 ○話す・聞く、三大原則を教室に掲示し、実践することを教員間で共通理解した。	B		○準備物・提出物の徹底をさらに粘り強く指導する。 ○指名されたときの返事をさらに徹底させる。
	朝の読書等、読書指導を推進し、読解力をつけるよう努めている。	○朝読書、読解タイムでの指導は十分な成果が上がっている。 ○生徒は給食準備時間、休み時間にもよく本を読んでいる。	A		○今後も読解力向上のため、朝の読書等の読書指導を継続していく。 ○学級文庫のさらなる充実を図る。
◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。					
心豊かな温かい人づくり	道徳や道徳実践活動を通して、豊かな心情や実践力を育てるように努めている。	○各担任が工夫して、様々な資料を使用した取組ができた。 ○道徳主任を中心に、各学年団の道徳担当者により資料や指導過程の研究が進んでいる。	B	B	○学年で統一して使用できる資料、生徒に理解しやすい資料の開発を積極的に行う。
	いじめ・暴力を許さない人権意識を高める適切な指導が日頃より実践できている。	○各学級担任がいじめを見逃さない姿勢を貫く指導ができています。 ○定期的な教育相談活動、また、いじめに関するアンケートをとることができた。	B		○個々の生徒の心情に近づけるよう対話の回数を増やす。 ○いじめの実態調査を夏休み前にも実施する。 ○どの生徒に対しても、毅然とした指導を継続していく。
	友人に対して思いやりの気持ちが持てるよう学級活動等の工夫ができています。	○各担任が工夫して様々な教材で取組んでいる。	A		
	計画的な人権学習の推進など人権尊重の心を育てる指導の工夫ができています。	○人権コンサート参加を保護者に呼びかけたり、2年団を中心とした人権学習の取組を公開することができた。	B		○教員の人権意識を一層磨くための現地研修などの取組が必要である。 ○総合的な学習の時間や道徳、学級活動とを関連させた、年間を通した計画的な取組を行う。
	生徒が意欲的にボランティア活動等に取り組めるよう指導に当たっている。	○生徒会主催のふれあいワークキャンプには学年の枠を超えて参加できた。 ○1年の総合学習の時間の取組で育てたサツマイモの売上代金を社会福祉協議会等に寄付できた。	C		○総合学習の時間等とタイアップしたボランティア活動を考えていきたい。

たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。				
	3年間を見通した計画的な進路指導を行い、主体的に進路選択する能力を身につけさせるように努めている。	○各学年団で円滑な取り組みができている。 ○職場見学や職場体験学習等の取組が充実してきた。	B	B	○少し進学指導に傾倒している感があるので、もう少し自己理解から始まって働くことの意義や生き方の指導まで発達段階に即したものにしていきたい。
	食育に対する意識を高める指導に努めるとともに、給食の準備から後片付けのまでが指導できている。	○昨年度に比べて残菜が減少した。 ○学年団全員で給食指導ができている。	A		
積極的に部活動に参加させ、練習を通して集団への所属感を味わわせることができる。	○部活動終了時刻まで、一生懸命取り組んでいる部が多い。	B	○部による活動の差をできるだけ少なくするために、複数での指導を考えたい。		
教職員組織と研修	◎教育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。				
	教育課題を達成するために校内組織が機能しているか。	○どの組織も問題なく機能していた。特に学年団、現職教育委員会は計画的に活動できていた。	A	A	○次年度は学校評価委員会を年度当初に作り、計画的に実働できるようにしたい。
教育課題を達成するための校内研修であったか。	○国語力向上の研修が中心であったが、現職教育主任、国語科を核に全教員の研修ができた。	A	○特別支援を必要とする生徒が増えてきているので、特別支援教育の研修を充実させたい。		
保護者・地域との連携	◎学校教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。				
	学校だよりや学級だよりによって積極的な情報発信を行い、学校の様子について分かりやすく伝えている。	○学校だよりと学年団だよりが1枚にまとめられ、他の学年の様子もよくわかるようになった。	A	B	
	保護者や地域住民からの意見を職員で共有し、学校改善に生かすよう努めている。	○保護者や地域住民からの意見は、職員朝会やプリント配布によって知らせるようにしている。	B		○今年度の学校教育評価の検証・分析をもとに一層の改善を図る。
保護者と協力し、早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習等よりよい生活リズムを作ることに努めている。	○養護教諭を中心に「保健だより」を工夫し、啓発・広報活動に取り組んでいる。	B	○PTAから保護者全体への働きかけも考えていきたい。		
施設・設備	◎生徒が安全に楽しい学校生活を送れる施設・設備になっているか。				
	毎日の安全点検を確実に実施し、危険箇所について早急に修理等ができている。	○壊れたらすぐに修理することを原則にしている。	B	A	○何度も修理を行っているのですが、すぐに壊れてしまう箇所が増えてきている。 ○修理できないところは新しい物に交換する必要がある。
普段から校内巡視や不審者への声かけ等を心がけ、危機管理を徹底している。	○生徒指導主事を中心に、学年団で校内巡視がよくできている。 ○素早く情報の伝達ができている。	A			